

誰一人取り残さない「チーム学習」



○自分から「教えて!」 ○聞かれたら「トコトコ教えてあげる!」

発行所
常磐南小学校
電話 46-2005
FAX 46-2048
— 第31号 —
2023.1.31

■速報値	学校診断アンケート (児童編)	*対象	3年生以上	…名
Q1	『学び合い』や「チーム学習」は楽しい	…	A: %	B: % C: % D: %
Q2	わからないとき、自分から「教えて」と言える	…	A: % B: % C: % D: %	
Q3	友達から聞かれたらトコトコ教えている	…	A: % B: % C: % D: %	
A:よくあてはまる B:ややあてはまる C:あまりあてはまらない D:まったくあてはまらない				



子どもとともに「ゆう&ゆう」1月号の特集にこんな記事があった。「子どもたちのやる気が出ないことランキング」
*対象者は小中ともそれぞれ86人

○小5: 第1位 学校の宿題
第2位 学校以外のお手伝い

○中2: 第1位 学校の宿題
第2位 宿題以外の学習

いかにも子どもらしい結果なのか。それとも先生の出し方に問題があるのか。いずれにせよ、小中学生とも学校の宿題に対して、大方いい印象

2023.1.31

宿題

*自主勉強に挑戦する子どもへ!

校長 都筑祐一

が、ないようだ。もちろん、そうであっても大半の子は、きちんと宿題をやり繰りしているのだが。

宿題とは一体何か。教員の押し付けなのか。それとも親の安心材料なのか。果たしてその効果は本当にあるものなのか。

教員の立場から言えば、授業の復習として学習内容の定着を目指すためのもの。加えて、家庭学習を習慣化させたいとの願い。そして、宿題を出せば保護者の協力を得ながら、

学力も心も安定する…との期待感がある。特に小学校の低・中学年は、保護者のサポートが子どもの成長に大きな意味をもつ。

しかし考えてみると、一律全員に同じ内容を課す宿題は高学年になればなるほど、その効果と必要性に疑いが増す。学習内容が難易度を増すからだ。

昨年末、冬休みを前にして、私は職員に宿題を最小限にするよう依頼した。それに合わせて、自主勉強に挑戦させた学級がいくつか現れた。

さて、その結果はどうであったか。冬休み明け、私は自主勉強を伝え合う授業を参観したり、提出された自主勉強ノートに目を通したりした。

内容も量も多岐に渡るが、算数の問題のやり直しや、漢字の練習が多くを占めた。しかし、大事なことは、その内容を本人が自分の意思で選択しているところにある。親と相談したとしても、決して一律、与えられたものではない。

学校の宿題を「やる気が出ないことランキング」に登場させないためには、どうしたらいいのか。

- ① 宿題そのものをなくす
- ② 自主勉強に切り替える
- ③ 従来の宿題と自主勉強のハイブリッド

(例…2日は従来通り、2日は自主勉強など) どうする宿題? 皆さんもご一考を。

